

○第10回神戸マラソンを延期し、感染拡大防止対策が可能なランニングイベント等代替イベントの開催を模索

神戸マラソン

次のとおり本大会の開催可否判断や代替イベントを行った。

体制・会議	開催時期	理由等
臨時総会（書面開催） （R2.6.5）	R2.6	新型コロナウイルスの終息が見通せず、感染拡大のリスク、医療救護スタッフやボランティアスタッフの確保が困難と判断したためR2.11.15に予定していた第10回神戸マラソンを1年程度延期し、感染拡大防止対策が可能な範囲での「ランニングイベント」を開催し、次年度の大会に繋げるイベントを計画
ランナー応援プロジェクト	R2.9～11	国や日本陸連によるガイドラインを配慮しながら、安全・安心にランニングに親しむ機会を設けるため、ランニング教室やルーマラソン等を実施
オンラインマラソン	R2.11	アシックスジャパン(株)が提供するフィットネス・トラッキング・アプリと連携してオンラインマラソンを実施

【有効であった対応】

- ①第10回神戸マラソン開催延期
- ②開催延期に伴うランニングイベントの実施することにより幅広い層を対象としてランニングに楽しむ機会の創出

【教訓・課題】

- ①安全・安心にランニングを親しむ機会の創出
- ②提供マラソン等への選手派遣・受入
- ③第10回神戸マラソンに向けての機運醸成

【今後の感染症に生かすこと】

医療従事者等、専門家の意見を聴取する機会の設定

○第10回神戸マラソンを再延期し、感染拡大防止対策が可能なランニングイベント等代替イベントの開催を模索

神戸マラソン

次のとおり本大会の開催可否判断や代替イベントを行った。

体制・会議	開催時期	理由等
臨時総会（書面開催） （R3.5.28）	R3.5	新型コロナウイルスの今後の感染状況が見通せない中で、大会運営に不可欠な医療救護スタッフやボランティアスタッフの必要数の確保が困難と判断し、R3.11.21に予定していた第10回神戸マラソンを再延期し、感染拡大防止対策が可能な範囲での「ランニングイベント」や「オンラインマラソン」を開催し、次年度の大会に向けた機運醸成を図るイベントを計画
ランニング教室	R3.9～11	国や日本陸連によるガイドラインを配慮しながら、安全・安心にランニングに親しむ機会を設けるため、ランニング教室やリレーマラソン等を実施
オンラインマラソン	R3.11～12	アシックスジャパン(株)が提供するフィットネス・トラッキング・アプリと連携してオンラインマラソンを実施

【有効であった対応】

- ①安全・安心な大会を確実に実施することが困難であったため、第10回神戸マラソン開催再延期
- ②「ランニング教室」「オンラインマラソン」の開催により、市民の意欲を高めること

【教訓・課題】

- ①より一層の安全・安心な大会の運営
- ②次年度に向けた機運醸成

【今後の感染症に生かすこと】

記載にあたり専門家等の意見を聴取

○第10回神戸マラソンを再延期し、感染拡大防止対策が可能なランニングイベント等代替イベントの開催を模索

神戸マラソン

次のとおり本大会の開催可否判断や代替イベントを行った。

体制・会議	開催時期	理由等
臨時総会（書面開催） （R3.5.28）	R3.5	新型コロナウイルスの今後の感染状況が見通せない中で、大会運営に不可欠な医療救護スタッフやボランティアスタッフの必要数の確保が困難と判断し、R3.11.21に予定していた第10回神戸マラソンを再延期し、感染拡大防止対策が可能な範囲での「ランニングイベント」や「オンラインマラソン」を開催し、次年度の大会に向けた機運醸成を図るイベントを計画
ランニング教室	R3.9～11	国や日本陸連によるガイドラインを配慮しながら、安全・安心にランニングに親しむ機会を設けるため、ランニング教室やリレーマラソン等を実施
オンラインマラソン	R3.11～12	アシックスジャパン(株)が提供するフィットネス・トラッキング・アプリと連携してオンラインマラソンを実施

【有効であった対応】

- ①安全・安心な大会を確実に実施することが困難であったため、第10回神戸マラソン開催再延期
- ②「ランニング教室」「オンラインマラソン」の開催により、市民の意欲を高めること

【教訓・課題】

- ①より一層の安全・安心な大会の運営
- ②次年度に向けた機運醸成

【今後の感染症に生かすこと】

記載にあたり専門家等の意見を聴取

○新型コロナウイルス感染症対策等による安全・安心な大会運営を推進し、第10回神戸マラソンを開催

神戸マラソン

- 神戸マラソンメディカル協議会における検討
- スタートブロックの検討・計画
- 感染疑い者の対応フローの作成
- 重症事案への対応
- 警備体制の確保

【有効であった対応】

- ①感染症対策を反映した各種計画、マニュアル等を作成し、それらに基づき大会運営を実施
- ②スタートブロックを拡大し、ランナー密集を回避し、2万人の検温を実施
- ③人命最優先の医事・救護計画に変更
- ④スタートブロック拡大に伴う警備員配置・警備体制を確保

【教訓・課題】

- ①感染症の動向に合わせた適切な医事・救護計画の策定やスタッフの配置が必要
- ②感染症の動向に合わせたスタートブロックの再検討が必要
- ③感染症の動向に合わせたゴールの再検討が必要
- ④集客イベント再開に向けた警備計画の策定

【今後の感染症に生かすこと】

安全・安心な大会運営の推進

- 県危機管理指針等を活用し、庁内で危機管理体制を構築。適宜課題を共有し、迅速に対応を検討。
- 対策本部への医療関係者の参画や網羅的な県独自の対処方針は対策全般が理解でき有用。

本部運営体制等

次のとおり体制を整備し会議等を開催

体制・会議	初回開催 (本部設置日)	理由等
連絡会議（県危機管理指針に基づく） 計1回開催（R2.1）	R2.1.27 (同上)	国が新型コロナウイルスを指定感染症に指定する方針を示したことによる
警戒本部設置・会議（同上） 計5回開催（R2.1～2）	R2.1.28 (同上)	奈良県で近畿圏初の感染者が確認されたことによる
対策本部設置・会議（同上） 計38回開催（R2.3～R3.2）	R2.3.1 (同上)	本県初の感染者確認による 患者情報、相談窓口設置、積極的疫学調査等協議

○体制の強化を随時実施

- ・ R2.3～ 入院コーディネートセンター設置（CCC-hyogo）
- ・ R2.4～ 宿泊療養対策窓口設置

【有効であった対応】

- ① 対策本部への医療関係者の参画（R2.3～）
- ② 網羅的な県独自の対処方針の策定・更新
- ③ 体制強化を適切に実施

【教訓・課題】

- ① 感染症対策や社会活動制限に対する専門家の助言を得られる体制の確立

【今後の感染症に生かすこと】

記載にあたり専門家等の意見を聴取